

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	太良町立大浦小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上については全校で一斉した取り組みができ一定の成果を挙げることができた。言語活動の工夫や話し合いのさせ方などについて授業力の向上に努めていくと共に、明らかになった課題を解決すべく中学校と連携しながら実践を進めていく。</li> <li>・豊かな心の育成については、道徳科の充実と同時に日々の学習や活動の中で豊かな心を育てていくよう取り組む必要がある。また、教育相談に関することやいじめ問題への対応などについては今後もチーム対応をしていく。</li> <li>・健やかな体の育成については望ましい生活習慣の定着に向けて取り組むことができた。引き続き、ひこばえカード等を活用し改善を目指していく。体育的行事では児童にめあてをしっかりと持たせ、振り返りもさせながら意識を向上させ、健やかな体づくりを目指していく。</li> </ul>

2 学校教育目標	ひこばえの心をもち、強く・かしく・美しく生きる子どもの育成を図る
----------	----------------------------------

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①小中連携による確かな学力の向上及び主体的・対話的に学ぶ態度の育成</li> <li>②自己肯定感や自己有用感を持ち、人を思いやる豊かな心の育成及びふるさと大浦を誇りに思う心の育成</li> <li>③粘り強く健やかな体の育成及び自他ともに命を大切にしている態度の育成</li> <li>④ワークライフバランスを保ち、働き方改革に対する教職員の根本的な意識改革の充実</li> </ul>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	・児童アンケートで学校の授業は「分かりやすい」と答えている児童は88%であった。結果の上昇が見られなかったのは、学習内容が難しくなり、児童の自己意識も高くなったのではないかと考える。今後も、授業改善に努めていく。 ・職員アンケートでは、マイプランの達成が2.8であり、あまり変動はみられなかった。教師の目標に対する意識が高くなったこともあり、3に及ばなかった。マイプランを常に意識して取り組んでいく必要がある。	A	・児童の個人差に対応した指導を行ってほしい。今後も引き続き行ってほしい。
	○自信をもって表現する子どもの育成	○「学級(クラス)の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と回答した児童80%以上	・「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえ、全教科の授業で「話し合う活動」を設定する。	A	・児童用アンケートでは、評価が3.4と中間評価より0.1ポイント上がった。「授業づくりのステップ」を活用したことや話し合い活動を意識して取り入れたことの結果だと考える。	A	・集会など全体の場での発表を堂々とできる場面を見ることができた。今後もそのような児童が増えてほしい。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価アンケートにおいて、「自分にはよいところがある」「自分は誰かの役に立っている」の項目で肯定的な回答をした児童80%以上	・人権集会やほかほかの木、道徳に関するアンケートに取り組み。 ・QUアンケートに関する校内研修を実施する。	B	・児童用アンケートによれば、評価が3.0と中間評価とあまり変化はない。人権集会やほかほかの木といった取り組みを行ったが、大きく数値が上がらなかった。今後も継続して、「一人ひとりを褒めて伸ばす」教育活動を継続していく必要がある。	B	・様々な教育活動を通して、自己肯定感・自己有用感を持った児童を更に増えるようにしてほしい。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○学校評価アンケートで、「まわりの人たちが、困っている人にやさしくしていますか」の項目で、肯定的な回答をした児童90%以上	・心のアンケートを毎月実施し、いじめの早期発見に努めると同時に事案発生の際はチームで迅速な対応を行う。 ・担任と児童一人一人と話す「教育相談週間」を設定し、児童の状況の把握と信頼関係の構築を行う。 ・毎月子ども支援会議を通し、教師間の児童の情報共有かつ指導の統一を図る。	A	・児童アンケートの結果によると、3.5で肯定的な回答をしている児童が96.5%と前回よりも結果が上昇している。 ・中間評価の時に比べて、いじめ報告も数件報告はしているが、事後経過も良好である。来年度も引き続き、組織全体で早期発見及び早期対応を心がけていく必要がある。	A	・オンラインゲーム上での暴言など、新たないじめも起きているとのことで、対応が難しくなってくると思われる。今後も早期発見と早期対応をお願いしたい。
	○生活指導の徹底	○学校評価アンケートで、「大きな声であいさつ」「正しい廊下歩行」「無言そうじができる」の項目で「よくなる」と答える児童70%以上	・毎月クラスで「大きな声であいさつ」「正しい廊下歩行」「無言そうじができる」を反省することで、児童の意識の向上を図る。 ・全校朝会で生活の話をする。また、定期的に放送でも、児童の良い行いを紹介する。	A	・児童アンケートより、「あいさつ」90.5%、「正しい廊下歩行」88.3%、「無言掃除」は90.5%と前回と比較して、数値の変動はあるものの、目標数値を超える結果となっている。しかし、個別の指導が必要なケースは残っているため、引き続き全職員による統一した指導を行っていく必要がある。	A	・地域で街頭指導などを行っている時も、挨拶が大変よくできていて気持ちが良い。
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●外遊びをする児童90%以上 ●「健康に食事は大切である」と考える児童95%以上	・外遊びを推奨するための放送を行い、曜日ごとに行う種目を設定し、様々な遊びが行えるようにする。 ・栄養教諭と連携し、食育指導を年3回以上行う。	A	・児童アンケートより、「外遊び」は前回と比べ若干ではあるが、あてはまる・大体あてはまると答えた児童は増加している。「食育」についても栄養教諭と連携し食育指導を年3回は行うことができた。	A	・引き続き、自らの健康維持のために行動できるよう指導してほしい。
	○健康管理及び健康習慣の定着	○学校評価アンケートで健康管理のために手洗い・うがい・歯みがきを行うことができたと答える児童を90%以上	・感染症対策も含め、日常的に意識して行えるよう、児童委員会やほけんたより、保健室前の掲示板を活用して啓発活動を行ったり、担任と養護教諭がTTで保健指導を行ったりする。	A	・児童アンケートより、「手洗い・うがい・歯みがきを行うことができた」と答えた児童は前回と比べ増加している。また、よくあてはまると答えた児童が前回より増えている。短時間ではあるが、手洗い指導を各学年行うことができた。	A	・感染症予防への対応が大変だったと思うが、よく実行できている。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・自分の勤務状況を確実に把握するために出勤退勤カードの管理を確実に実施する。 ・資料の事前配布やICTの活用により会議をスリム化し、会議の回数や時間を減らす。 ・毎週金曜日を定時退勤日として設定し確実に守るようにする。	B	・時間外勤務を減らすような意識が高まってきて、肯定的な回答が93.9%となり、月45時間を超える職員が少ない月が多くなった。 ・今後も学校が担うべき仕事に専念できるように仕事の精選や保護者・地域との役割分担の明確化を図っていきたい。	B	・難しい面もあると思うが、今後もなるべく超過勤務を減らすよう工夫してほしい。地域や家庭が分担できるものを明確にしていってほしい。各種機関が協力できるものもあると思う。
	○学校組織力の向上 ・ブロック制による学年経営 ・プロジェクト制による校務運営 ・各種主任、コーディネーターのリーダー性の向上	○「プロジェクトやブロック制を意識した業務ができた」と答える教員80%以上 ○「担当分野の内容改善を進んでいった」と答える職員80%以上	・ブロック主任、各職員は年間を通じて日常的に情報の共有を行い、ブロック主任は、意図的・計画的に教育活動が行われるように進捗状況を把握する。 ・プロジェクトリーダーを中心として、毎月の取組での重点的事項について内容・方法の検討や改善を行う。 ・各担当の内容について、職員会議での提案や連絡会での連絡を欠かさず行い取り組む。	A	・職員アンケートの結果からは肯定的な回答が93%で平均評価が3.1と中間評価より改善した。各主任等を中心に全職員が分担及び協力していく雰囲気及び体制を今後も維持していく。少数の職員に負担がかかっている点検をしながら、今後もチームとして取組を行ってほしい。	A	・職員の協力体制や若手育成の意識の雰囲気があると聞いた。引き続き、その雰囲気を保ってほしい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果		
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援の関する専門性や意識が向上したと答える教員80%以上。	・特別支援に関する研修会を実施する。 ・子ども支援会議で情報共有すると同時にケース会議を開催して個別の支援の対応を図る。	A	・子ども支援会議、担任や支援員との情報交換の中から困り感がある児童を見つけ出し、管理職、担任、養護教諭、スクールカウンセラー、医療機関等と連携を取り、来年度に向け適切な就学支援を行った。	A	・更に研修を深め専門性を高めてほしい。
◎主体的・意欲的な態度の育成	◎児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○自分の夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答える児童80%以上	・全ての教科等、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。 ・授業場面においては必ず振り返りの時間を設定する。	A	・児童アンケートでは、97.8%の児童が肯定的な回答をした。今後も学校行事だけでなく、教科等の学習場面においても目標を持たせ、その実現を図ってほしい。	A	・肯定的な回答が多くて良かった。今後も工夫した活動をしてほしい。

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育	
5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いずれの項目も、「おおむね達成」または「十分達成」であった。</li> <li>・学力の向上に関しては、国語の校内研究を中心として取り組み一定の成果を出すことができた。「話し合い活動」や「振り返り」を工夫し、教師の「マイプラン」を意識した取組を更に推進していきたい。</li> <li>・心の教育では、いじめや問題行動の早期発見や早期対応についてチームとして対処した。今後更に人権意識を高めるとともに、自己肯定感や自己有用感を高めるような働きかけや手立てを考えていきたい。</li> <li>・職員の業務効率化や時間外勤務時間の削減は改善が進んできた。今後も更に業務を見直したり、ブロック制やプロジェクト制を意識した学校組織力の向上に努めたい。</li> </ul>